

身延山大学京都特別公開講座（2016年12月2日）

世界基準：新しい日蓮聖人像

岡 田 真 水

1. はじめに

今回、「世界基準：新しい日蓮聖人像」と題して、三番目のトリとしてお話しさせていただきます。皆様は日蓮聖人をどのようにとらえていらっしゃるでしょうか。はじめに、高校生などの学生が学ぶものより、一般的な日蓮聖人像を見てみたいと思います。まず、今年1月に行われた「2016年度センター試験：日本史B」の第3問 問3の抜粋です。

鎌倉時代の武士の中には⑥学問・文学や宗教・思想に関心を持つ者もいた。(略)
下線部⑥について述べた文として正しいものを次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 北条義時は学問に関心をもち、和漢の書物を集めた金沢文庫を設けた。
- ② 伊勢神宮の神官 度会家行は、本地垂迹説による唯一神道を完成させた。
- ③ 日蓮は「南無阿弥陀仏」ととなえると極楽浄土へ往生すると説いた。
- ④ 平氏の興亡を描いた『平家物語』が、琵琶法師により平曲として語られた。

この設問に対し、選択肢①は義時が間違いで、正しくは実時です。選択肢②にある度会家行は「反本地垂迹説」による伊勢神道なので誤り。私たちに関係する選択肢③はご存知の通り、日蓮聖人は「南無妙法蓮華經」と題目を唱えることを説き、極楽往生ではなく、娑婆世界での成仏を目指す法華經の精神を広められましたので、この選択肢も誤りとなります。ですので、正解は選択肢④となるわけです。難易度は標準とされていますが、①－③までがわからなくても④が正しいことはわかりますので、「正しいものを一つ選べ」というこの問題は比較的簡単であるといえます。

同じように、『詳説日本史ノート』の穴埋め問題をみてみましょう。

(3) 【法華經の眼目「南無妙法蓮華經」の題目唱和を説く宗派】

宗 派	開 祖	主 著	教 義・その他	中心寺院
日蓮宗 (法華宗)	(28) 漁民の子 安房出身	『(29)』 ↑ 邪教興隆 で北条時 頼に国難 を預言	釈迦諸經のうち(30)經を真髓 とし、その眼目である「南無妙法 蓮華經」の(31)唱和を主張 辻説法により拡大 他宗を邪教と非難、他国からの侵 略(蒙古襲来)を予言→幕府により 伊豆及び(32)に流罪	久遠寺 (山梨)

ここにおける正解は(28)が日蓮、(29)が立正安國論。教義・その他の(30)は法華、(31)は題目、(32)佐渡となります。

この問題で、次の2点に注目してみると、

- (1) 「預言」と「予言」が混在している。「預言」は天や神から「預かったことば」で、「予言」は未来のことを「予め述べることば」です。
- (2) 日蓮聖人の宗教活動の特徴として他宗非難と流罪が挙げられていること。

蒙古襲来を予言したのが伊豆流罪・佐渡流罪の原因だというのは随分乱暴な話です。

この本の他の表と比べて見ると、同じく流罪人となった法然上人は、旧仏教界の非難がその原因とされています。いかにも彼は風評被害にあった者のよう記されていることが指摘できます。それにひきかえ、日蓮聖人は他宗を非難したのでそうなったとも読み取れる表です。現在一般的に言われる、日蓮聖人は「排他的」「攻撃的」であった、というイメージは、こういうところからも育つのだといえるのではないのでしょうか。

さらに、Z会の『攻略日本史 テーマ・文化史 整理と入試実戦』をみてみましょう。

実践問題

1 中世の文化について述べた次の1～4の文章を読んで、【設問A】および【設問B】に答えよ。
(同志社大・文)

1 鎌倉時代になると、新仏教として「ア」を開いた法然や、「イ」を開いた①親鸞、さらには踊念仏によって「ウ」を広めた一遍が出現した。その結果、従来の物語絵巻や、社寺の縁起譚・靈驗譚を描いた絵巻と並んで、②彼ら祖師の伝記を絵画化した絵巻が多く作られるようになった。彼らの活動に刺激されて、③題目を唱えることによって救われることを説き、「エ」を開いたのが日蓮である。もちろん、中国から禪宗が伝来したことも忘れることはできない。多くの名僧が中国から来朝し、また、数多くの日本の僧が中国に渡って禪を学んだ。中国僧から学んだ人の中には、④我が国最初の日本仏教史を著した虎関師錬がいる。これら新仏教の特色は、旧仏教のように戒律や学問などを重視せず、ただひたすら選び取られた一つの道（念仏・題目・禪）に専心することによってのみ、救いにあずかることができると説き、広く武士や庶民に門戸を開いたことである。

2 鎌倉時代はまた、旧仏教においても、新たな動きが見られた時代である。解脱上人と称され、「オ」にこもり、戒律を尊重して旧仏教の復興に努めた法相宗の貞慶や、京都の「カ」の学僧で法然の「選択本願念仏集」に反論を唱えた書物を著した華嚴宗の高弁を忘れることができない。また、大和の「キ」にあって戒律の復興と民衆化に努めた律宗の寂尊もいる。⑤その弟子である⑥性は病人の治療などの慈善事業に尽力し、奈良に病人救済施設を建てた。

鎌倉時代になると新仏教として「ア」を開いた法然や、「イ」を開いた①親鸞、さらには踊り念仏によって「ウ」を広めた一遍が出現した。(略) 彼らの活動に刺激されて③題目を唱えることによって救われることを説き、「エ」を開いたのが日蓮である。

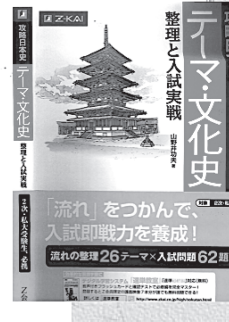
【設問】 各設問の解答を漢字で記せ。

この「エ」の部分に入るのは「法華宗」であります。もっとも日蓮聖人が活躍されていた頃はそういう呼び方はありませんでしたが。

問題文の囲ってある部分③にある「日蓮が拠り所とした経典は何か？」という設問に対しての答えはもちろん「法華経」「妙法蓮華経」ですが、この部分を読むと、日蓮聖人は、法然・親鸞・一遍の浄土信仰布教活動に刺激を受けて法華経弘通活動に入られたかのような印象を受けます。

このように一般的に生徒・学生が問題集などで学ぶ中に現れる「日蓮聖人像」は私たちからすれば疑問符のつく部分が多くあるといえるでしょう。

第7章
実践問題



2. 教科書に見る日蓮聖人像

問題集の次は、実際に学校で使用される教科書を見てみます。大学入試で必携の教科書、もっとも信頼されている日本史の教科書といえば、山川出版社の『詳説 日本史B』です。そこにある「鎌倉時代」はこんな感じです。

武士のあいだに広がり、やがて浄土真宗（一向宗）と呼ばれる教団が形成されていった。

同じ浄土教の流れの中から、やがて浄土教の一派である、日蓮（にっせん）が現れた。日蓮は、善人・悪人や信心の有無を問うことなく、すべての人が救われるという念仏の教えを説き、念仏札を配り、鎌倉仏によって多くの民衆に教えを広めながら各地を布教して歩いた。その教えは時宗と呼ばれ、地方の武士や庶民に受け入れられた。

ほぼ同じ頃、古くからの法華信仰をもとに、新しい救いの道を開いたのが日蓮である。初め天台宗を学び、やがて法華経を釈迦の正しい教えとして選んで、題目（南無妙法蓮華経）をとがえることで救われると説いた。鎌倉を中心に、他宗を激しく攻撃しながら国難の到来を予言するなどして布教を進めたため、幕府の迫害を受けたが、日蓮宗（法華宗）は関東の武士層や商工業者を中心に広まっていった。

関東を中心としたあいだに大きな勢力をもつようになったのは、日蓮宗である。生誕によってみずから教団を築き、釈迦の境地に近づこうと主張する日蓮は、12世紀末、宋に渡った天台の僧侶によって日本に伝えられて日本に伝えられた。

宋西は密教の新羅にもすぐれ、公家や幕府有力者の地位を受けて、のちに臨済宗の開祖と仰がれた。宋西の死後、幕府は南宋から来日した蘭漢道長・無学祖元ら多くの禅僧をまねいて、臨済宗を重んじ鎌倉に建長寺・円覚寺などの大寺をつぎつぎと建立していった。それは、禅宗のきびしい修行が武士の気風にあったためであり、海外の新しい文化を吸収し、仏教政策の中心にする目的もあった。

禅宗の中で、ただひたすら坐禅に徹せよと説き、曹洞宗を広めたのが道元である。宋西の弟子に学んだ道元は、南宋に渡ってさらに禅を学び、坐禅そのものを重視する教えを説いて、越前に永平寺を開いた。その弟子たちは旧来の信仰も取り入れて北陸地方に布教を進めたので、曹洞宗は広く地方に広がっていった。

こうした鎌倉時代に広がった新仏教に共通する特色は、天台・真言をはじめ旧仏教の教義を批判し、ただ運びとられた一つの道（念仏・題目・禅）によってのみ救いにあずかることができると説き、広く武士や庶民にもその門戸を開いたところにある。教団の形をとって後世に継承されていった。

このような新仏教に刺激され、旧仏教も新たな動きをみせた。鎌倉時代の初め頃、法相宗の真観（しんくわん）や華嚴宗の師賢（しきけん）は、戒律を尊重して南部仏教の復興に力を注いだ。

やがて浄土教の浄土宗の義尊（ぎそん）と忍（にん）（法橋）らは、戒律を重んじるとともに、貧しい人びとや病人の救済・治療などの社会事業にも力を尽くし、鎌倉幕府に受け入れられ、多くの人びとに影響を与えた。

宗派	開祖	主要書	中心寺院
浄土宗	法然	浄土三昧論	知恩院（京都）
浄土真宗	親鸞	教行信証	本願寺（京都）
時宗	一休（一休上人法号）	（一休上人法号）	浄光寺（神奈川）
臨済宗	栄西	興禅護国論	新仁寺（京都）
曹洞宗	道元	正法蔵	永平寺（長野）
日蓮宗	日蓮	正法蔵	久遠寺（山梨）

新仏教の宗派一覧

① 臨済・曹洞という名は、中国におけるその派の祖の姓からつけられた。臨済宗は坐禅の中で問答から与えられる問題の一つとつねに融合して公案問答、悟りに達することを主眼とするが曹洞宗はひたすら坐禅すること（只管打坐）によって悟りの境地を体得しようとした点に特徴がある。

② 忍性は会員に病人の救済施設として「大願寺」を建て、施療や慈善に尽くした。

5. 鎌倉文化 115

「ほぼ同じころ、古くからの法華信仰をもとに、新しい救いの道をひらいたのが日蓮である。はじめ天台宗を学んだ日蓮は、やがて法華経を釈迦の正しい教えとして学び、題目（南無妙法蓮華経）を唱えることで救われると説いた。鎌倉を中心に、他宗を激しく攻撃しながら国難の到来を予言したりして布教を進めた日蓮は、幕府の迫害を受けたが、日蓮宗（法華宗）は関東の武士層や商工業者を中心に広まっていった。」（『詳説 日本史B』 山川出版社）

この記述で驚くのは「他宗を激しく攻撃しながら」という表現です。

先ほども申しましたように「排他的」「攻撃的」という日蓮聖人のイメージは、古くからのプロパガンダにもあったでしょうが、現在はこのような教科書の記述が原因となっていると考えられます。このように書かれたことを何度も読み、暗記するわけですから、影響力は甚大であるといえます。

文部省検定教科書に対する浄土宗その他の危惧

さきほどの『詳説日本史』の前のページには、浄土宗と浄土真宗に関する記述もあります。

《 鎌倉仏教 》

仏教では、それまでの^{きとう}祈禱や^{がくもん}学問^(→ p.65)中心のものから、内面的な深まりをもちつつ、庶民など広い階層を対象とする新しいものへの変化が始まった。

その最初に登場したのが^{ほうねん}法然^{てんだい}である。天台の^{1133～1212}教学を学んだ法然は、源平争乱の頃、もっぱら^{あみだぶつ}阿弥陀仏の誓いを信じ、^{ねんぶつ}念仏^{なむ}(南無阿弥陀仏)をととなえれば、死後は平等に^{ごくらくじょうど}極楽浄土^{おうじょう}に往生できるという^{せんじゆ}専修念仏の教を説いて、のちに^{じょうとしゅう}浄土宗の開祖と仰がれた。その教は^{くじょうかねざね}摂関家の^{1149～1207}九条兼実をはじめとする公家のほか、武士や庶民にまで広まったが、一方で旧仏教側からの非難が高まり、法然は^{とさ}土佐に流され、弟子たちも迫害を受けることになった。

25 ^{しんらん}親鸞^{1173～1262}もこの時、法然の弟子の一人として越後に流されたが、のちに関東の^{ひたち}常陸に移って師の教を一步進めた。^{はんのう}煩惱の深い人間^{あくにん}(悪人)こそが、阿弥陀

仏の救いの対象であるという^{あくにんしょうき}悪人正機を説いたが、その教は農民や地方

5. 鎌倉文化 113

「親鸞……師の教を一步進めた」という表現は、親鸞の浄土真宗の方が法然の浄土宗より一步進んだすぐれた教で、浄土宗の方が劣っているという印象を与えるのではないかとすることが危惧されるところです。浄土宗では、2014年に検定をうけた高校倫理の教科書にみられた

「法然の教をさらに徹底したのが浄土真宗を開いた弟子の親鸞である」(東京書籍)

「親鸞は、師の法然の教を継承し発展させた」(第一学習社)などの表現(実は1970年の教科書から「徹底させ」の表現はあった)が「あたかも法然上人が未完成で不徹底だったとの印象を与えかねない。」として定期宗議会で問題になり、浄土宗総合研究所の総合研究プロジェクト「法然上人の教科書記述研究」を立ち上げています(『週刊ポスト』2015年4月24日号)。

また、「まじない」という表現を使われた真言宗でも、「真言宗イコール迷信といったような印象を与えかねない。宗教は怪しいものだと教育されてしまうこと

5

になる」という危機感をもって、豊山派は教科書研究班を立ち上げて調査を開始しており、終わり次第、順次「こんな空海像があります」と出版社に情報を提供していくと発表しています（『中外日報』2015年6月24日号）。

3. ネットに見る日蓮聖人像

現在、教科書問題と同じくらい気になるのは、インターネットに出回っている日蓮聖人像です。例えば、「Yahoo 知恵袋」には「日蓮って何がスゴいんですか?」というスレッドがあり、目をおおうばかりの罵詈雑言コメントが次々につけられています。真言宗豊山派が教科書問題で述べていたように、「こんな日蓮像があります」とこちらから各方面へ向けて発信してゆくことが必要な時期にきているのではないのでしょうか。

4. 日蓮聖人はどんなイメージ?

では、例えばどのような日蓮聖人像があるのでしょうか。みなさんは日蓮聖人にどんなイメージをお持ちでしょうか。

漢字1字で示すと何になりますか?

例えば私なら《正》の人ということが一番に浮かびます。「正法」、「立正」、「正々堂々」（これは師夫が申しました）などのイメージです。何と言っても法華経という名前をみると、

妙	法	蓮華	経
サット	・	・	・
サット	・	・	・
善, 正, 在	法, 教, 真	白蓮華	糸, 経
正	法	華	経①
妙	法	蓮華	経②
			竺法護 286年
			鳩摩羅什 406年

というように、「正しい教え」ということばが入っています。日蓮聖人はこの教

えを弘めるために、度々の襲撃や弾圧にも耐え抜き、「日蓮其の身にあたりて、大兵をおこして二十余年なり。日蓮一度もしりぞく心なし。」(『弁殿御前御書』文永十(1273)年九月十九日昭和定本 p.752) というように、まっすぐに行動された方でしたのでまさしく「正」の文字が当てはまると感じます。

あるいは《智》の人であったとも言えます。日蓮聖人はやみくもに他宗を攻撃し闘争にあけくれた方ではありません。知(智)の集積である大蔵經を丹念に読み込まれ、様々に検討された結果、全ての人が、たとえ大変な時間がかかることがあっても、等しく成仏すると説く法華經こそが最もすぐれた經典であると判断されたわけです。法華經の中には全てのすぐれた教えが内包されています。法師品には如来の座として「一切法空」が説かれ、安樂行品には大乘の律儀が説かれ(師夫行弘・談)、藥王品には阿弥陀信仰が説かれ、陀羅尼品には真言が説かれており、念仏・禪・真言・律のエッセンスは全て法華經にあるいえます。このような經典は他に例がないと思います。これをさらに日蓮聖人は精鍊され、「お題目」として私たちにお示しく下さいました。後にも述べますが日蓮聖人は決して思いつきやうろ覚えをおっしゃる方ではなく、常に確かな文献と確かな情報によって人々を導かれたのです。

それとともに、特に顕著な日蓮聖人の特徴は《慈》の人であったということです。御遺文にみれば、日蓮聖人がいかに細やかな心根で人々に接しておられたかがよくわかります。このようにたくさんのメッセージが、しかも直筆や高弟たちの引き写しの形で残っている他宗派の祖師は一人もありません。日蓮聖人が信徒を思いやりまめやかであったこと、またそれを受け取った方々がお手紙などを大切にされたこと、そして何と言っても弟子であり檀越であった、文筆官僚であったと言われる富木常忍が紙を提供し続け、またお手紙を収集されたおかげをもって、現代の私たちはそれを「生きる指針」とすることができるのです。

漢字2字だと？

意外に知られていないのが日蓮聖人は《柔和》であったということです。私が自分のゼミ生の行状を怒って「破門だ」と息巻いていたところ、師夫が「お祖師様は、ひとりの弟子も破門したことはなかったよ。」とつぶやきました。まことに

ハッといたしました。激しい方というイメージとは裏腹に、温かい方であったことがわかります。

それはまた《忍辱》の人ということにも通じます。日蓮聖人は『詳説 日本史』で「他宗を激しく攻撃しながら」と表現されましたが、実は「攻撃された」のは日蓮聖人のほうでした。松葉谷、小松原、文八、龍ノ口と襲撃を受けたのは日蓮聖人です。それに対し、日蓮聖人は常に理路整然たる論法を持って堂々と批判なさいましたが、聖人の側から念仏・禅・真言・律宗への襲撃を企てたことは一度もありません。このことから聖人は《忍辱》の人であったと言えます。

5. 世界基準：日蓮聖人の時代観

これまで述べました日蓮聖人像は、実は私たち日蓮宗の人間には当たり前であったものです。さらに新しい日蓮聖人像を最後にご紹介してみたいと存じます。それは日蓮聖人が、スケールの大きな世界的視野をもち、時代を正しく見据えられたというものです。

時代といえば、日蓮聖人が生きられた13世紀は天変地変が打ち続き、

「旅客来たりて嘆いて曰く、近年より近日に至るまで、天変・地夭・飢饉・疫癘遍く天下に満ち、広く地上に迸る。」（『立正安國論』昭定 p.209）

という有様でした。まるでこの言葉がピッタリと当てはまるような昨今の日本であり、世界であります。

13世紀は世界的な寒冷化と環境画期だった

『立正安國論』をお書きになった背景になにがあったのでしょうか。「環境宗教学」的に、この時代を辿ってみたいと存じます。

冷涼乾燥期だった13世紀

世界的には、8世紀から12世紀にかけては、中世温暖期であったと考えられています。温暖期には人口が増えますから、農業収量を上げる、人口が増える、収量を上げなければなりません、そこで耕作地を広げるために大開拓時代となりま

した。収量が上がるとさらに人口が増えるというサイクルが起っていたところへ、寒冷化がやってくる。そうすると飢饉になるわけです。そして人々の抵抗力が落ちたところで疫病が蔓延する。森林面積が減少して、天敵がいなくなったネズミが増えて、実際に14世紀にはペストが世界的に大流行します。

教科書には書かれていない事実：飢饉の鎌倉時代

世界的に寒冷化が始まったのは、13世紀の半ばからのようです。まさしくこれが日蓮聖人の時代です。実は日蓮聖人が『守護國家論』や、『災難興起由来』などの筆をとられる契機となった正嘉の大飢饉の前にも冷害によって、養和の飢饉・寛喜の飢饉、と大飢饉が集中的継続的に起こっています。実際、鎌倉室町期には3－5年に一回、日本のどこかで飢饉と疫病が発生していたのです。

特に、正嘉二（1258）年に始まる正嘉の大飢饉では、特に関東の農村の疲弊が凄まじく、「江戸郷前嶋村など百姓ひとりも候はず」といわれたくらいでした（井原今朝男 2004『中世寺院と民衆』臨川書店、p.18）。この「逃脱」したものたちが「潰れ百姓」と言われた流民でした。

ところが、まったく不可解なことに、これらの飢饉は教科書では取り上げられないばかりか、鎌倉から室町時代にかけては、集約的農業である二毛作が始まり、水田農業生産力の飛躍的發展があったというのが従来の定説なのです。

二毛作というと、お米の他にももう一度穀物が獲れる、すごいなというところなのですけれども、実は、そうではないようです。この時期に二毛作が始まり、かつ小作が増えたのは、生産性が上がって余剰が生じたからではなく、寒冷化による慢性的稲作不調から始まったものであろうと推測する学者がいるのです（磯貝富士男 2002「日本中世史研究と気候変動論」『中世の農業と気候——水田二毛作の展開』吉川弘文館 p.112など）。お百姓さんは年に一度の稲作で事足りればもう一度耕作することはしません。寒冷化のみならず、鎌倉末から南北朝にかけてはため池築造期であったという記録もあり、現在では甚だしい用水不足があったこともわかってきました。

1257年（正嘉元年）の大噴火？

正嘉の大飢饉の前年正嘉元（1257）年、《正嘉の大地震》が起きました。このとき、日蓮聖人も被災していらっします。ところがこれは日本だけの災害ではなくて、最新の研究では全地球的な出来事だったことがわかってきたのです。

2012年6月14日 Panthéon-Sorbonne 大学のフランク・ラビーニュ（Franck LAVIGNE）博士は、1257年、過去3,700年で最大規模の噴火（火山噴火レベル7）があったことを発表しました。博士はさらに2013年9月、研究チームが、巨大噴火で北極から南極に至る地球全体に灰をまき散らした火山の名前を、インドネシアのロンボク島にある Samalas（サマラス）山と特定したこと、この噴火の発生時期は、1257年の5月から10月の間だったとの結論に達したことを明らかにしました。¹⁾

サマラス山というのは、噴火前には4000メートルを超える高山であつたらしいのですが、現在はリンジャニ山麓東の巨大なカルデラ窪地となっています。

この噴火の際に撒き散らされた火山灰は、遠くグリーンランドにも痕跡を残し、日本にも次のような記録が『帝王編年記』廿五に残されています。²⁾

「（正嘉元年）《閏三月廿五日》。今旦世間似木葉之灰燼。物自天降。京中辺土者多成不審。但台岳焼時如此。云々。」（明け方京都に、木の葉が燃えたような灰が天から降った。比叡山が焼けた時はこんなようだったと言われた）。

灰が世界中を覆うと、太陽の光がこれに遮られて地上に届かなくなります。そうすると、気温が下がって寒冷化が起こるわけです。これは1カ月や2カ月でおさまりません。何年と長く続くのです。これが噴火の恐ろしさです。噴火の翌年正嘉二（1258）年、世界中が寒い年となったということはすでに環境学者ブライアン・フェイガンという環境学者が発表していました。

「寒い年1258年は、遠くはなれた火山の噴火によって起こされ、細かい灰が大気を冷やしたためであつた」³⁾

正嘉の大地震（1257）と正嘉の大飢饉（1258）

この大噴火の後噴煙・降灰が世界の広い範囲に亘って寒冷化をもたらし、長期間影響を及ぼし続けました。上記の大噴火のあつたと考えられる1257年に、『立正

安國論』を起筆するきっかけとなった「正嘉の大地震」があり、翌1258年、正嘉の大飢饉が起きました。正元元（1259）年、日蓮聖人は『守護國家論』にこのように記していられっしゃいます。

「正嘉元年には大地大に動じ 同二年に大雨大風苗實を失へり」（昭定 p.116）

「正嘉元年 大地大に震い、同二年に春の大雨苗を失い、夏の大旱魃に草木を枯らし、秋の大風に菓實を失い、飢渴忽ち起りて萬民を逃脱せしむること金光明經の文の如し。……」（同 p.117）

13世紀の後半も飢饉は続く

この飢饉はその後も長く続きます。御遺文には次のような記述が見出せます。

- ・「今年日本國一同に飢渴」（『土木殿御返事』文永十（1273）年一月 昭定 p.754）
- ・「但、當世の體こそ哀れに候へ。日本國數年の間打續き けかちゆきて衣食たへ 畜るいをば食いつくし 結句人をくらう者出來して 或は死人 或は小兒 或は病人等の肉を裂取て魚鹿等に加へて賣りしかば人これを買ひくへり……又 去年の春より今年の二月中旬まで疫病 國に充滿す。十家に五家 百家に五十家 皆やみ死し或は身はやまねども 心は大苦に値へり。やむ者よりも怖し」（『松野殿御返事』建治四（1278）年二月十三日 昭定 pp.1441-2）
- ・「なかにも今年は疫病と申し、飢渴と申しとひくる人々もすくなし」（『時光殿御返事』弘安元（1278）年七月八日昭定 p.1534）
- ・「八月九月の大雨大風に日本一同に不熟。ゆきてのこれる萬民冬をすごしがたし。去_{ヌル}寛喜正嘉にもこえ来らん三災にもおとらざるか」（『上野殿御返事』同年十月十九日 昭定 p.1596）
- ・「すべて いにしへ これほどさむき事候はず……ひるもよるも さむくつめたく候事 法にすぎて候」（『兵衛志殿御返事』同年十一月二九日 昭定 p.1605）

6. 今なぜ 日蓮学か？

災害の時代に入った現代は13世紀と同じ

今再び日蓮聖人に学び、聖人が伝えようとなさったことを広めなければならな

いのは、今日が日蓮聖人の時代と極めてよく似ているからです。少し並べただけでも、地震・噴火・豪雨と次のような大きな災害が続いています。

大震災

- 1995年 1 月17日 阪神淡路大震災 Mj7.3
- 2004年10月23日 新潟県中越地震 Mj6.8
- 2004年12月26日 スマトラ島沖地震 Mj9.3
- 2011年 3 月11日 東日本大震災 Mw9.0
- 2016年 4 月14日 (Mj6.5)／16日 (Mj7.3) 熊本地震

噴 火

- 1991 (雲仙普賢岳)、
- 2000 (三宅島) 9 月 2 日全島避難、解除されたのは2005年 2 月 1 日
- 2014 (御嶽山) 9 月27日、2015 (口永良部島、桜島)

豪 雨

- 1999 6.29豪雨災害 広島 呉 都市型土砂災害
- 2004 台風23号 京都府舞鶴市 観光バス水没事故 豊岡市内円山川決壊
- 2011 平成23年台風第12号 十津川
- 2014 平成26年 8 月豪雨による広島市の土砂災害
- 2015 平成27年 9 月関東・東北豪雨 9 月 9 日から11日鬼怒川決壊

世界的視野を持ち、知に基いてひるまずあきらめず行動した日蓮聖人

災害が打ち続くと、昔も今も、なぜこのように不幸が続くのか、もうこんな世は嫌だ、今生には望みが持てないとあきらめてしまう者も多いものです。日蓮聖人も初めはこれら災害を不吉な前兆だと考えていらっしやいました。

- ・「又其の後文永元年^{きのえね} 甲子七月五日彗星東方に出て餘光大體一國に及ぶ。此又^{よはじまりてより}世始已來無き所の凶瑞也。内外典の學者も其凶瑞の根源を不知。予^{いよいよ}彌悲歎を増長す。」『安國論御勘由來』文永五（1268）四月五日昭定 p.423

ところが、これが龍口法難や佐渡流罪という大難の後には全く違った見方をするようになられるのです。

・「大地震大彗星等……偏に四大菩薩、出現せ令む可き先兆なる歟」

(『如來滅後五五百歳始觀心本尊抄』 文永十年(1273)四月二十五日 昭定 p.720)

ここでは、この災難こそ地涌菩薩のリーダーで四大菩薩が出現する先ぶれである
といい、

・「仏法 必ず東土の日本自り出ず可き也。其の前相 必ず正像に超過せる天
變地天 之有ル歟……正嘉年中自り今年に至るまで 或は大地震 或は大天變
……大虚に互って大彗星……惟れ偏に此 大法興廢の大瑞也。」(『顯佛未來
記』 同年五月十一日 昭定 p.742)

・法華經流布の「先相」;「是の如く國土乱れて後、上行等の聖人出現し、本
門の三つの法門之を建立し、一四天四海一同に妙法蓮華經の廣宣流布疑ひ
無き者歟」(『法華取要抄』 文永十一年(1274) 昭定 p.816;818)

さらに、正法像法にもなかった大きな天変地異があるということは、仏法が世
界の東の端の日本からわき起こる大きな奇瑞であるとし、法華經が広まる証拠だ
と高らかに宣言されるのでした。日蓮聖人が日本を粟つぶのような小さな国(粟
散国)と呼ばれるのは、決して日本を蔑視しておいでなのではなく、この東の果
ての小さな国が広い世界に仏法を広めるのだという世界的な視野の表れである
といえましょう。

日蓮聖人は、当時第一級の知識集成たる大蔵經中から、身を全うし、民を安んじ、業を
存するに最良の政策を求められた結果、政策の基軸轉換を提言された。それが「立正安
国」である。

この仏法興隆のために、日蓮聖人はまず經藏に入って、我々の行動の規範・倫
理・智慧の依り処である經典を涉獵されました。

一方、日蓮聖人には富木常忍という外護者(パトロン)を通して、東條御厨の
文筆官僚ネットワークからの情報が続々と入ったと考えられます。さらに、今日
鎌倉幕府の記録に見当たらない対馬や壱岐の情報や、中国大陆・朝鮮半島の事情、
蒙古来襲の時期をご存知だったことから容易に想像できるのが、海の道からの情
報、すなわち海人ネットワークの情報をおもちであったからだろうと推察されま

す。

日蓮聖人は想像や憶測でものをおっしゃらない方です。お手紙には几帳面に頂き物（リスト）をまず記されるというご性格です。引用は原文に忠実で極めて正確です。つまり日蓮聖人がものをおっしゃる時には、必ず事実に基づく根拠があるのです。日蓮聖人の「予言」「預言」と世に言われるものは、天から降ってきたお告げなどではなく、実はそのようなきちんとした根拠に基づいた正確な推測であったということ、日蓮聖人というのはそのようなクールな賢人であったという日蓮聖人像をもっと広く知っていただきたいと考えております。⁴⁾

全てのいのちを貴ぶ日蓮聖人

日蓮聖人は法華經の皆成仏の精神にのっとりおっしゃいます。

「汝須_レ一身之安堵_ヲ思_{ハフ} 先 四表之静謐_ヲ禱_ル者歟」（『立正安國論』（1260）昭定 p.225）

環境が破壊されないときに我々の身の安全があり精神の安定がある。我が身の健康と環境の健康は一体である、と日蓮聖人は考えておられます。だからこそ我々は、合掌してあらゆる存在を敬し、正しい信仰をもち、正しい心で生きようではないかという呼びかけです。これはまさに常不輕菩薩の精神です。この常不輕菩薩の姿も、地震のあと地面から湧いて出られた菩薩のリーダーというイメージと並んで、日蓮聖人にふさわしいものです。

本日は攻撃的・排他的という誤った日蓮聖人像に対し、わたくしたちは、智慧と慈悲に満ち、忍耐力に優れて柔和な日蓮聖人、グローバルな視野をもち、きちんとした根拠に基づいてわたくしたちの道をお示しくくださるリーダーという日蓮聖人像をご紹介します。

さいごに

さいごにまとめをしておきます。

・法華經の教えは永遠の真理であり、かつ今日喫緊の重要性をもつ。これを題目によって弘められた聖人に対して、歴史・倫理の教科書その他の教材や、ウェッ

ブには「攻撃的」「排他的」「カルト的」というイメージが記されていることは問題である。

・智慧と慈悲の人、忍耐の人、正しい情報によって、言説には根拠をもっておられた世界的視野の人という日蓮像を広めてゆきたい。

では、それはどうやれば可能になるのでしょうか？

わたくしは、わたしたち一人一人が合掌とお題目を実践する姿を示す以外にないと考えます。

パーリの律大品にはこのような話が伝えられています。

尊者アッサジは、朝早く服装を整え鉢と上衣とをもって王舎城に托鉢に入り、行くも帰るも、前を見るのも後を見るのも、屈するのも伸ばすのも端正で、目を地に着け、作法に適っていた。彼を見てウパティッサはこう思った：「実にこの世に尊敬すべき道を得た人がいるならば、この人はそれらの修行僧のひとりだ」

「あなたのお身体は誠に静けさに満ち、清らかに澄み切っている。あなたは誰を師としておられますか。」

そして、アッサジから釈尊の教える偈を聞いたウパティッサは、「生まれるものは必ず滅びる」という道理をさと、友のコーリタと共に、250人を率いて世尊の居られる竹林精舎に向かったのです。

このウパティッサこそ舍利弗であり、その友コーリタとは目連のことです。のちに釈尊の二大弟子と呼ばれるようになったこの二人が、それまでの師の元を去って釈尊に師事するようになったきっかけは、実は、釈尊に入門してまだ日の浅い比丘の優れた威儀に打たれたことでした。

自戒を込めて申し上げるのですが、世の中の誤った日蓮聖人像を改めるためには、まず日蓮宗徒たる自分たちの威儀を整える必要があります。銘々があらゆるいのちに合掌し、ここからお題目を唱えることによって、日蓮聖人の姿勢を偲んでもらえるようになることを念願して、閉じることに致します。

(2016年12月2日記)

註

- 1) LAVIGNE, F. 他, (2013-09-30), "Source of the great A.D. 1257 mystery eruption unveiled, Samalas volcano, Rinjani Volcanic Complex, Indonesia". *Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America*, vol.110 no.42, 16742-16747
- 2) 『新訂増補国史大系』所収。30巻（現存するのは27巻）。僧永祐（南北朝時代の人、伝未詳）編）
- 3) FAGAN, Brian, 2000, *The Little Ice Age —How Climate made History 1300-1850*, New York, p.21
- 4) くわしくは、岡田真美子「日蓮の時代13世紀の環境と立正安國の祈り」（宮川了篤編『日蓮仏教における祈りの構造と展開』山喜房仏書林 pp.512-530（71-89）